



第6号

発行  
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339  
TEL0772-27-0018  
http://www.nariaiji.jp/

### 「勝つ」という事

相変わらずの不順な天候が続きますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。今年もはや、施餓鬼のご案内の季節になりました。世話人様皆様方には何時もお世話頂き本当に有難うございます。

成相寺では今年の五月より秘蔵仏の初公開を行っております。最近イベント続きですが折角のご参拝に記憶に残る何かをと思ひまして、客殿の奥にいらした仏様方を内陣にお祀りしております。詳細は山内巡礼に掲げさせていただきます。ご一読下さいませ。

この公開に先立ち案内看板の文字を考えておりましたところ、「勝つ」と言う言葉が、何かしら強く頭に残りまして。公開中の仏様の御利益なども聞



成相寺秘蔵仏初公開

未だの世を守護する強い仏

不動明王 毘沙門天 軍荼利明王像

係するのでしょうか、今の時代よく言われますのが「勝ち組」とか「勝ち逃げ」とか「勝つ」というのはスポーツ以外ではあまり良い意味にならないのかな。と考えてしまいました。「勝つ」と云うのは相手を負かすと言う事だからかな、負かされるのはいやだからかな。とも思いました。負かされる人の立場に立って「勝つ」事をあからさまに喜ぶことを遠慮する。たとえば最近の子供の運動会みたいに手をつないでみんなで仲良くゴールする。そこには「勝つ」は存在せず、間違つた公平感と思ひやりと遠慮深さが美德とされているのでしょうか。

また、「必勝」と書いたのはちまきで受験しても合格したら「お陰様で」と言葉を濁して、本当は万歳して回りたいのを遠慮する。外国人の人が一番理解できない古くからの日本人の美德とさ

でも最近では変わってきています。私の様な昭和三六年生まれ位はまだ遠慮や思ひやりの美德を正しく理解していませんが、街を行く若者達は大抵遠慮されても譲られても、当たり前のようにそれら享受

しています。与えられ過ぎているのか、この美德とされている事の意味が解って居ないように感じます。そのくせいざ勝負となった時には誰かに何かに頼ろうとします。「勝つ」と言うのがどんなに大変なことが解っていないんだと思ひます。

今年の冬期オリンピックを見ていて、真央ちゃんが演技を始めたとき、涙が止まらなくなりました。この子はどれだけの我慢と努力をして来たのだろう、好きだから、だけでは言い表せない心の葛藤をどうやって乗り越えてきたんだろう。と考えてしまいました。

あどけない顔に涙を浮かべて悔し泣きでした。でも立派な「勝ち」です。まさしくこれが仏様のおっしゃりたい「勝ち」なのです。己の迷いや煩惱そして恐怖に打ち勝つてこそ得る事が出来る境地。真央ちゃんも自分の力で勝ち得た宝物です。これからも応援していきますよ。

いささかおじさん臭いですが、街を行く若者達に云いたい事があります。一度の人生なんだぞ。自分の人生なんだぞ。与えて貰つたり用意して貰つた物で良いのか。人生の勝負なんだから勝ちに行け。何かを勝ち取つてこい。



なんて事をです。「勝つ」までの課程が大事なんです。卑怯な事はしないとか感謝を忘れないとか。街を行く若者達に味わつて欲しいです。若いからこそ、今この時しか出来ない、夢中で勝ちに行く為に何とかしようとする。そのぞくぞくする様な感じを。

かく言う私の勝負は今まだ決着がついておりません。毎日その日の終わりに嫌なことを数えて五つなら良いことを、無理からに六つ数えて「勝ち」として勝利の祝杯です。少しせこい気もしますが。これからの季節ハイボールで祝杯なんて最高です。

そして人生の最後の時に良いことが上回れば「勝ち」としましょうか。「勝つ」にこだわつても良いんですよ。おおつぷらに喜んで良いんですよ。それに恥じない自分が居れば、そんなこんなを考えながら一日の終わりに、苦笑いし、緩やかな勝利をかみしめて、毎日感謝と共に過ごす。そんな人生も良いかなと、最近思ひました。勿論、祝杯は程々で。

時節柄皆様お身体お大切に下さいます。南無観世音菩薩

合掌 弘眞

山内巡り  
第四回

## 秘蔵仏公開

この度、成相寺では一幅の軸と二体の秘蔵仏を公開致しております。

軸は『不動明王図』で、作は室町時代(約六五〇年前)の物です。二体の仏像は『軍荼利明王』と『蔵王権現』です。双方、鎌倉時代後期から南北朝期(六三〇年前)の作とされており。

## 『不動明王図』 (ふどうみょうおうず)

この軸は大変黒ずんで痛みが進んでおります。元禄時代に一度修復が成されてはいますが、護摩炊きの時に掛けられていた軸の様で、修行僧が何代にも渡りこの軸の前で護摩を焚き祈願を重ねて来た様子が伺えます。不動明王と云いますのは大日如来がいつも身近で私達を守るためにお姿を変えられた仏様と云われています。お顔に特徴があり怒った「憤怒」の表情です。多くの煩惱を抱える私達全てを力ずくで救うという決心の為にこの「憤怒」の顔をしておられます。私達の心の中の弱さや狡さを叱り飛ばして、負けるな。と言っ下さっている仏様です。

## 『軍荼利明王』 (ぐんたりみょうおう)



この仏像は一面八臂(顔が一つで手が八本)の姿で、手は二本の腕で三鈷印を結び他の腕には武器や斧を持ち、顔は三ツ目で腕に蛇を纏うというお姿の仏様です。「宝生如来」

の変化した姿であると云われており呪いをしりぞけたり、外敵から私達を守護し障害を取り除いて下さるといふ心強い仏様です。

## 『蔵王権現』 (ざおうこんげん)



こちらの仏像も又激しい「憤怒」相で、右手と右脚を高く上げ、左手は腰に当てておられます。左脚一本で像全体を支えるという大変特徴のある姿の仏様です。阿修羅像にも似た悲しみを湛えた表情で幼さの残る大変美しいお顔立ちです。

役行者(7世紀飛鳥時代の頃の山岳修験行者)が、吉野の金峯山で修業中に「この乱れた末法の世に、我々を守って下さる最も強い仏様の招来を」と祈ると、雷の中から仏様の化身が現れたそうです。これが蔵王権現です。釈迦如来、千手観音、弥勒菩薩の三尊の合体した仏様の化身とされインドに起原を持たない日本独自の仏様です。

それぞれ、普段は客殿の奥に祀られておりますがこの偉大な力を持った仏様のお顔を皆様と共に拝顔できます様にと、今回初めての一般公開と成りました。「必勝開運」「厄災消滅」の御祈願を受付させて頂いております。お申込みの方のお名前を書きました御札を御祈願致しましてお手元にお送り致します。滅多と無いこの仏様方との御出会いです。ぜひ、お申込み頂いて仏様に叱咤激励を頂かれたり、励ましてもらって下さい。良いご縁結びと成りますことをお祈り致します。

## 御縁つながり

昨年、地元のお世話になっております方と一緒に俳優のSさんが、参拝に見えました。テレビでおなじみの俳優さんです。私共の年代のヒーローですので、嬉しくてはしゃいでしまいました。

色んなお話をさせて頂き、本堂にご案内しました。すると地藏菩薩の前ですらっと、御真言を唱えられました。驚いて訪ねると、お母様の影響とか。高年齢のお母様がお元気で、とてもお大切に思っつらっしゃいました。

Sさんはドラマの時のままのとても清々しい印象の方で綺麗に年齢を重ねてこられたんだな、と感じました。成相寺にはご縁で色々な芸能関係の方がお参りに来られますが、がっかりする事もたまに有ります。

綺麗に年齢を重ねること、これは大切ですが難しいですね。成相のご本尊の聖観世音菩薩様は、別名美人観音様です。心の美しい人のことを美人と呼ぶのですよ。と教えて下さいます。私もそうでありたいと、心から願わずには居られません。

